

イチャオシ!

M OVIE

『第6回UNHCR難民映画祭』

世界中に暮らす難民・国内避難民は4,300万人。そうした人を保護、支援する国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) が今年も映画祭を開催する。上映されるのは、東日本大震災の被災地に向かうミャンマー難民を追った『すぐそばにいたTOMODACHI』や、カンボジアの虐殺でポル・ポトの右腕だった人物を正面から取材した『エネミーズ・オブ・ザ・ピープル (人民の敵)』など、日本初上映作を含む18作品。紛争や人権侵害、自然災害により故郷を追われた人々とともに、彼らに寄り添う人たちの姿が描かれた作品を通して、自分に何ができるのかを考えてみたい。



© 6th UNHCR Refugee Film Festival

会期：10月1日(土)～9日(日)
 会場：東京都内6カ所(イタリア文化会館、セルバンテス文化センター東京、青山学院大学、青山学院アスタジオ、ノルウェー王国大使館、グローバルフェスタ JAPAN2011会場)
 URL：unhcr.refugeefilm.org/
 問：国連難民高等弁務官 (UNHCR) 駐日事務所
 TEL：03-3499-2011

E VENT

写真展『エチオピア、参詣帰路』

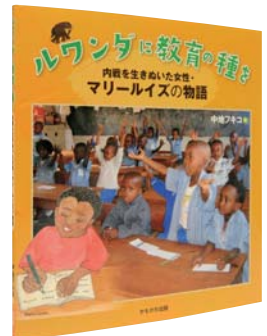
多くの参詣者が訪れる、エチオピア・アルシ地方の聖地ファラカサ聖者廟。ドラムをたたき、宗教歌を唱和しながら悩みの解決を願う参詣者たちの姿を追った写真展。撮影者の松波康男さんは、2001年に青年海外協力隊員としてエチオピア・バレーボール連盟に配属され、03年のアフリカ選手権大会で同国男子ナショナルチームのヘッドコーチも務めた。本人を交えたギャラリートーク(10月1日13時～14時)も開催予定。

会期：9月27日(火)～10月3日(月) 10時半～18時半(最終日は15時まで)
 会期中無休
 会場：新宿ニコンサロン(東京・新宿)
 URL：www.nikon-image.com/activity/salon/
 問：新宿ニコンサロン
 TEL：03-3344-0565

B OOK

『ルワンダに教育の種を 内戦を生きぬいた女性・マリールイズの物語』

主人公のルワンダ人マリールイズは、当時女子としては珍しく高校まで教育を受けた洋裁の先生。青年海外協力隊員との出会いがきっかけで、研修のため来日し、日本人は誰でも字が読めることに感銘を受ける。そして帰国直後の1994年、ルワンダで内戦が勃発。命からがら難民キャンプにたどりついた彼女は、日本の友人たちの協力を得て再び来日。NPO法人「ルワンダの教育を考える会」を立ち上げ、子どもたちが教育を受けられるよう祖国に学校を建設する活動を始める。現在も講演などで日本全国を飛び回り、命の尊さと教育の大切さを訴え続ける彼女の半生が描かれた児童書。



この本を
1人の方に
プレゼント
詳細は
38ページへ

中地フキコ 著
かもがわ出版
1,575円(税込)

B OOK

『THANK YOU WORLD 世界の国旗と「ありがとう」』

日本のみならず、世界中に衝撃が走った東日本大震災の発生後、開発途上国を含む各国から救援隊や物資、義援金、多くのメッセージが寄せられた。本書は、こうして日本をサポートしてくれた108の国に、その国の言葉で「ありがとう」と表現。また、日本のために各国で行われた募金活動、チャリティーイベント、追悼集会、寄せ書きの作成といった写真が掲載され、巻末には支援物資のリストも付いている。日本が多くの国に支えられ、世界とつながっていることを再認識させてくれた今回の震災。この本の印税は、すべて被災地の復興のために寄付される。



この本を
1人の方に
プレゼント
詳細は
38ページへ

新人物往来社 編
新人物往来社
1,000円(税込)